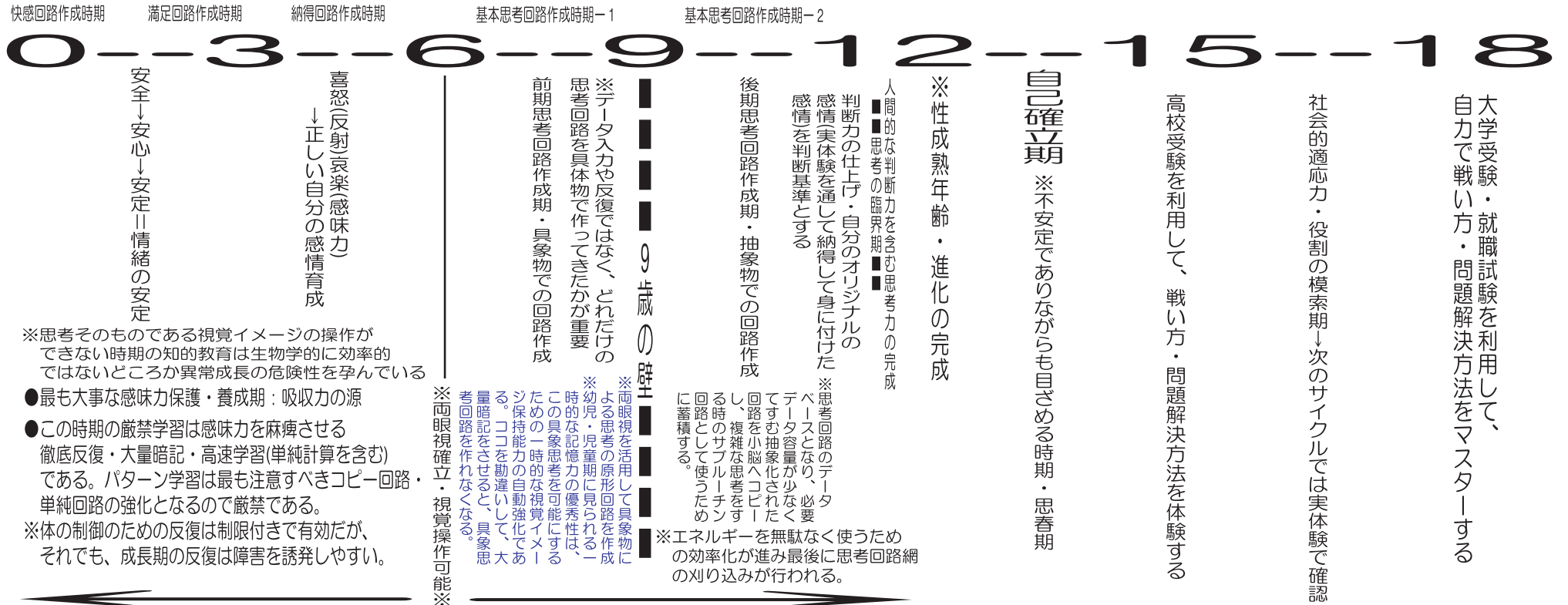


Priority in Education

■思考を楽しめなくては人生を楽しむことは出来ない。思考力養成とは人生を楽しむ力（楽力養成：学力養成）のことである■



【お手伝い期】→「ありがとう。助かったよ。」の一言で有能感を育てることができる。

→社会貢献が楽しくなる種を蒔くことが出来る時期→自分を捜しながら自分に何が出来るかを模索するようになる。

■喜怒は反射なので伝えなくても修得するが、哀楽は時空間を共有し体感しないと伝えられない。
そして、この哀楽の感情こそが将来の判断力の元となる違和感を含む正しい感情となる。

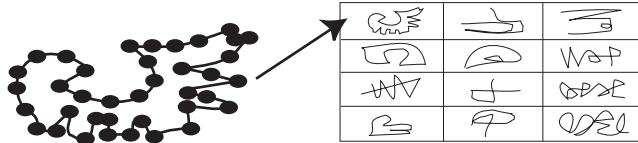
■ゆっくりと感じてジックリと味わうことが丁寧な感情養成になるこの時期の正しいオリジナルの感情養成が判断力の根幹を形成する。

※自分のオリジナルの感情体験をすることでのみ、将来の人間的な判断力の元となる正しい感情を養成できる。

【注意】この時期に、分からなくても実感しなくても「できる」ようにしてしまうような知的系統的早期教育(一般的な知育が相当)の徹底反復を受けると、処理方法をコピーする力が養成できずに、自力では自在に使えない負の学力を育てられ、表面的な真似しか出来なくなる。

【注意】単純作業である高速計算、コピー回路の強化に過ぎないパターン学習による単純思考回路の強化は、深い思考となる複雑回路の成長を妨害する。逆に、様々な思考回路を育て終えた後でのパターン学習は、受験などに利用しても無害で効果的に働くので有効活用することが出来る。

■大脳の思考回路を簡略化して再利用できるように小脳にコピー保存する。



■大脳の神経細胞は140億個だが、小脳は1000億個の神経細胞を持っている。この小脳に蓄えられた思考回路をサブルーチンとして利用しながら大脳は思考の司令塔となる。この「乳脳から永久脳への進化」は6才～12才で行われる。

■当然、12才以降も今までに培った回路を応用した思考は、環境とデータと工夫と努力により智慧という形で進展を続けるが、思考回路そのものが増加することはない。

■思考回路網の刈り込み時期は早い子だと7才前後、遅い子(回路網作成期間が長い子)でも12才前後までである。人間としての進化が時間軸のリミットに従ってプログラムされているからである。進化プログラムに沿った自死(アポトーシス)と考えられる。生体エネルギーを有効利用するための進化である。

【参考】刈込み時期計算方法：刈り込み現象は脳内エネルギーを効率的に思考エネルギーとする為の必然である】
基本思考回路作成期間は12才をリミットとして下記のように考えられる。

(生まれつきの個人の進化エネルギー－既エネルギー消費)×エネルギー効率(0.5～0.8:RIQ→通常0.6-7)

例1：(100-70)×0.7=30×0.7=2.1→6才+2.1才=8.1才まで：先行学習型・早期教育型・予習型

例2：(070-50)×0.5=20×0.5=1.0→6才+1.0才=7.0才まで：学習障害+早期知育型

例3：(070-10)×0.5=60×0.5=3.0→6才+3.0才=9.0才まで：学習障害+テンポ重視型

例4：(100-20)×0.7=80×0.7=5.6→6才+5.6才=11.6才まで：無理なく無駄なく効果的学習型

例5：(100-20)×0.8=80×0.8=6.4→6才+6.4才=12.4才まで：高処理能力+効果的学習型

例6：(100-70)×0.8=30×0.8=2.4→6才+8.4才=8.4才まで：高処理能力+早期教育型

※無駄なエネルギー消費を思考回路作成が始まる前になるべくさせない(ストレス生活を避ける)ことが大きな学力養成のキープポイントとなる。